

全国農政連推薦・県農政連公認
参議院議員藤木しんやの

永田町でも 百姓宣言

「突如として吹き荒れた解散風。」

【短期決戦を精一杯戦い抜く】

台風が日本列島を縦断するなか、安倍総理は9月28日の臨時国会召集日の冒頭に衆議院解散を決意されました。熊本県は、今回から県内5区の選挙区が4選挙区へ再編された形で初めての選挙戦となります。選挙の争点はいくつもありますが、まずは国会での議論がその基本にあるべきではないかと思えます。議論の質の追求こそが最優先されるべきではないか。この間の農政議論を振り返って強くそう感じてしまっています。解散総選挙、私も共に精一杯戦います。

【宮城全共に参加について】

9月7日(木)から11日(月)までの5日間、宮城県仙台市で開催された宮城全共(第11回全国和牛能力共進会)5年に一度開催される和牛の祭典です。私は、10日(日)に開催された「肉牛の部」枝肉セリを視察しました。全国から優秀な牛が数多く集まっております。血が騒ぐものがありました。最高値は、1キロあたり5万円超え。肥育農家としての努力が最高のかたちで実った瞬間に立ち会うことができました。あの会場での熱気と拍手喝采が今

でも余韻として残っています。日々の努力が評価される場があることはとても大切です。出品された皆さま、購買者の皆さま、大会運営関係者の皆さま、大変お疲れさまでした。

次回開催地は鹿児島県。今回、鹿児島県の勢いがすごいものがありました。会場には、若い生産者の姿も目立ちました。その力強い眼差しに勇気をもたらしました。次回の熊本勢の活躍にも期待大です。

【新規就農者2年連続6万人超え】

農林水産省の調査結果では、28年度の新規就農者は6万1500人となり2年連続で6万人を超え、近年、非農家出身の雇用就農者数の増加が目立つようになりまし。新規就農者が継続して地域に定着するというのは容易ではないということも肌身で知っています。多様な人材は活躍できる農業。しっかりと支えていきます。



▲自民党卸売市場議連勉強会で発言

全国・県農政連推薦

参議院議員山田としおの

農政問題に斬り込む 規制改革推進会議の乱暴な動きが止まらない

規制改革推進会議が、これまでの農協に対する攻撃に加えて、今回、卸売市場の在り方などにまで攻撃の矛先を拡大してきています。

卸売市場のあり方については、2014(平成26)年から農水省は、5年ごとの整備基本方針の策定のため、関係者による検討会を7回にわたり開催し、期待される役割や機能や施策のあり方について、真摯な議論を行い、報告書を取りまとめたのであります。ところが、報告を取りまとめた後、匿名の個人から、ホットラインを通じて、規制改革推進会議に、卸売市場の企業化に向け、民間企業を開股主体にするべきとする意見が届き、それを受けて、規制改革推進会議のワーキング・グループの座長から「総点検を行うべき」との発言がなされ、正式のテーマになったという経緯があり、さらに規制改革推進会議では、それに同調する委員の発言もあり、結局、「抜本改革が必要」という結論に至ったと伝えられています。一体、これは、どういうことなのでしょう。党も農業競争力強化プログラムで「卸売市場法を抜本的に見直し、合理的理由のなくなっている規制は廃止する」としてしまっていたのですが、しかし、何をするのかを明らかにしていませんでした。そこで、党の有志議員による議員連盟が立ち上がり、市場関係者のヒアリングが開始されたのです。私も幹事として加わっていますが、3

回目の会議で、「①農水省は、市場外流通の拡大問題や物流の合理化が必要との抽象的な問題意識は示しているが、まずは、農水省が行った検討会での議論を踏まえて、具体的な改善方向を示すべきでないのか、②新聞報道では、農水省は、今回で卸売市場法の改正案は示せず、先送りするとしているが、しかし、規制改革推進会議は農協改革、全農改革、酪農制度改革にみられるように、まさに過激な改革を迫ってきているのであって、それをさせないようにすべきである、③議連は、時宜を得た取り組みであり、我々がリードする形で検討し、自己改革も含めた改革案を示すべきではないか」と発言しました。

【求められる、我が国の実態を踏まえた自己改革案のとりまとめ】

セリ取引は畜産物では大宗を占めていますが、青果等では極めて限られ、相対取引が中心になっており、また市場外取引も大半を占めるようになっていきます。どういった取引が望ましいのか、関係者で詰めた議論がなされなければなりません。

米国等では、大規模流通企業や資本による高度な情報通信技術を活用した受注と、多様な流通拠点を活用した配送システムによる供給の仕組みが出来上がっており、それを主流にする形で仕組みが作られた場合、JAの共同出荷を基本にした分荷や市場出荷、そして卸売市場での価格形成なども大きく変わるようになります。

組合員農家の結びつきと産地形成に努めてきているJAは、まさにこの問題に深くかわり、方向を誤らないよう、詰めた議論をしっかり行おうではありませんか。頑張りましょう。